

霧島山系の麓に 姉妹都市

野尻町(宮崎県)と能都町が
長年育んできた「絆」は
小林市と能登町に受け継がれます。

【写真】韓国岳から望む新燃岳と天孫降臨の舞台「高千穂峰」
(平成19年12月16日撮影) 小林市提供



Special Report

宮崎県 小林市

畜産のまち・小林市

宮崎県南西部、霧島連山の麓に位置する小林市は、平成18年に須木村と、22年に野尻町と合併した畜産のまち。中でも肉用牛の評価は高く、19年の全国和牛能力共進会で日本一に輝いた宮崎牛の代表28頭のうち、7頭が小林市の牛だったという。

一昨年に宮崎県で発生した口蹄疫では、昼夜を問わない懸命の防疫活動を実施。小林市からの発生を防ぎ、全国に誇るブランドを守った。

23年1月には霧島連山の一つ「新燃岳」が噴火。家が揺れるほどの大きな爆発音、吹き上が

るマグマと噴煙の恐怖、降り注ぐ火山灰や落石などの甚大な被害を乗り越えてきた。

能登町との縁は平成7年、旧野尻町と旧能都町の姉妹都市締結から続く。お互いに合併を経て、姉妹都市関係は新小林市と能登町に受け継がれた。

口蹄疫と新燃岳が収束した昨年7月、肥後正弘小林市長が初めて能登町を訪問。持木一茂町長と姉妹都市関係の確認や今後の交流について意見を交わした。「南九州の山のまち」と「能登半島の海のまち」は、共に歩む新たな一歩を踏み出した。

【DATA】Kobayashi City

面積：563.09 km²
人口：47,899人
(平成24年2月1日現在)
市の木：モミ
市の花：コスモス
市の虫：ホタル
市の鳥：アオバト



広報担当者が語る小林市の魅力



小林市広報担当
さがふじとしのり
下り藤利教さん

おいしい食材と四季折々の美しい景色が小林市にはあります。私のおすすめは果物。春から秋にかけて甘くておいしい果実を楽しむことができます。ブランド化されたメロンやマンゴーはもちろん、梨やぶどうを自分で収穫し食べることができる観光農園もあります。そして、それらを作る小林市民の朗らかな人柄も私のお気に入りであり小林市の魅力だと思います。

小林市は南九州に位置し、かつては薩摩藩の領地でした。その影響もあり、使う方言は薩摩弁に近く、明るくて朗らかな人々が暮らしています。晩酌に焼酎は欠かせません。小林市内には百年の歴史を持つ焼酎メーカーがあり、一流の杜氏によってさまざまな商品が生まれています。ぜひ、皆さんと小林市のおいしい焼酎を飲み交わしながら、交流を深めたいですね。



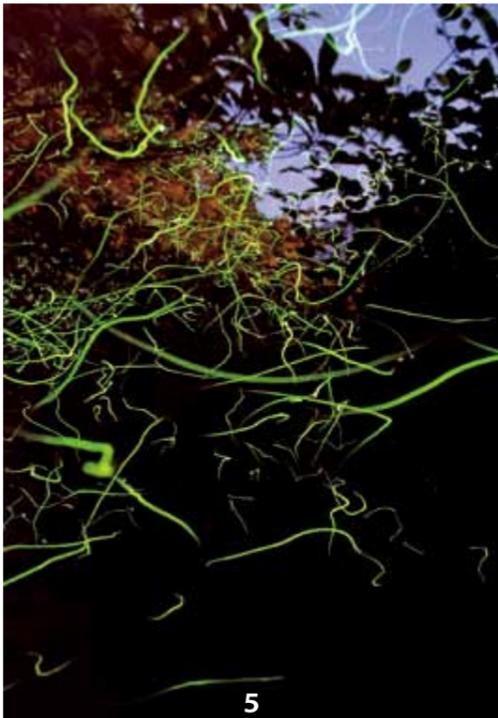
小林市広報担当
鶴田 健介さん



4



1



5



2



3

1_自然落下したものをネットで収穫するマンゴー。2_宮崎県内一の生産量を誇るアールスメロン。3_厳しい品質基準で知られる宮崎牛の中でも特に品質の高さに定評のある「西諸牛」。4_春は菜の花やカリフォルニアポピー、秋には100万本のコスモスが咲き乱れる生駒高原。5_出の山公園ではゲンジボタルが幻想的な乱舞。

平成23年1月、189年ぶりにマグマ噴火した新燃岳。麓の小林市にも火山灰や落石など甚大な被害が発生した。

小林市と能登町で新たに姉妹都市協定を締結し、交流を深めていきたい。

今回、持木町長と久田議長に小林市に来ていただきまして、ありがとうございました。

これまで旧野尻町と旧能都町との間で姉妹都市協定を締結していましたが、お互いが合併して小林市と能登町になりました。今後は、小林市と能登町で新たに姉妹都市協定を締結させていただき、交流を深めていきたいと考えています。

旧須木村、旧野尻町と合併した小林市は人口約4万8千人。全国的にも有名な宮崎牛の生産のほか、養豚や養鶏など畜産業が盛んで、マンゴー、アールスメロン、クリ、ぶどう、梨など果樹の生産も多い自然豊かな農村都市です。

一昨年の口蹄疫問題や昨年の新燃岳噴火など、数々の困難に直面しながらも、市の理念であります「人々の知恵と融和で築くまちづくり」を目標に、市民の皆さんと行政が力を合わせて困難を乗り越えてきました。

小林市には海がありません。海の恵みが豊かな能登町と山の恵みが豊かな小林市との間で、姉妹都市交流ができることをうれしく、楽しみに思っています。今後は、お互いのまちの文化や産業の交流、情報の交換などを通して両市町がさらに発展していければと願っています。

能登町の皆さま、今後ともよろしくお願いたします。



肥後 正弘 小林市長

Higo Masahiro (66)

能都町・能登町との姉妹都市交流を通じて多くのことを学ばせてもらった。

野尻町は、平成7年10月4日に能都町の町制施行40周年事業の一環として姉妹都市協定を締結しました。

当時、野尻町が宮崎県町村会に①日本海側②雪が降る北国③人口規模が同じ④漁業が盛んな町一という条件で姉妹都市締結先を探してもらったところ、石川県町村会から能都町を紹介していただきました。過疎対策と地域づくりという共通点もあり、まさに野尻町が姉妹都市として願っていた町でした。

姉妹都市締結後は中学生の派遣交流、能都町のしかたの風や野尻町のメロンフェアなどにお互いの特産品を出品するなどの交流を行ってきました。平成8年には能都町が毎年東京で行っていた物産展に参加させていただき、野尻町産メロンの全国的知名度が上がるきっかけになりました。

能登町となってからも、持木町長から姉妹都市関係を発展させていきたいという言葉いただきました。合併で関係が途切れると思っていたのでうれしかったです。

能登町の皆さんには、この17年間大変お世話になり、たくさんのお話をいただきました。本当にありがとうございました。野尻町は平成22年3月23日に小林市と合併しました。肥後市長も市議会も姉妹都市交流に対して前向きに考えてくれていますので、今後ともお付き合いをお願いします。



長瀬 道大 野尻町区長

Nagase Michihiro (63)

野尻町職員を経て平成7年2月から野尻町長に。合併後は小林市の地域自治区「野尻町」区長に就任。



【写真上】今後の交流を確認した、左から溝口市議会議長、肥後市長、持木町長、久田町議会議長（2月9日、小林市役所で）



【写真左】姉妹都市交流の内容について小林市側から提案と説明を受け、意見が交わされた（10日）

Special Report 小林市

トップ会談で今後の姉妹都市交流を確認

両首長、議会議長が会談

昨年7月、肥後正弘小林市長の能登町訪問から新たに動き出した小林市との交流。2月9日から10日にかけて、持木一茂町長と久田良平議長が小林市を訪れ、今後の姉妹都市交流について話し合った。

す。これまで野尻町と交流してきた17年間を受け継ぎ、小林市との交流も深めていきたい」と話した。

姉妹都市交流を協議

能登空港（11時40分発）から羽田空港経由で小林市に向かった持木町長と久田議長は、午後4時30分に小林市役所に到着。肥後市長、溝口誠二市議会議長のほか、西川和孝副市長、蔵本茂弘副議長らの出迎えを受けた。

翌10日は、小林市役所で今後の姉妹都市交流の内容や姉妹都市締結調印式について協議。小林市側から「小林市と能登町で新たに姉妹都市締結の調印を行いたい」という提案を受けて、今後両市町で調整していくことを確認した。

肥後市長は、自然豊かで畜産と果樹生産の盛んな小林市の紹介を交えながら「今後は姉妹都市交流を重ねて両市町がますます発展することを祈念します」とあいさつ。これを受けて持木町長は「この季節に訪れると改めて気候風土の違いを感じま

また、これまで実施されてきた野尻町との交流を確認しながら、中学生派遣交流事業の継続や行政、産業、市民レベルでの交流の可能性について意見を交換した。

野尻町との間で紡がれた糸を受け継いだ小林市と能登町。今後さまざまな分野で交流を進め、その「絆」をさらに太くする。